はつかいち
広報
HATSUKAICHI
No.1161
平成24年（2012）
10月1日
News Bulletin
毎月1日・15日発行

特集

紡いでいく

神楽　そのとき、人は鬼になり、姫になり、神になる

―特集　2～15ページ―

「恵比寿（えびす）」―浅原神楽団―

9月9日、浅原市民センターで行われた敬老会。浅原神楽団が「恵比寿」を舞った。恵比寿さまの人徳を讃える舞であり、神祇舞（じんぎまい）のひとつ。恵比寿さまが「蛭子命（ひるこのみこと）」であるという説に基づき、常に腰を低くし、なよなよと舞う。この舞の所作の中には、滑稽な「しぐさ」も加わって、鑑賞者の心を楽しませてくれる。舞方は、沖野明彦さん（26歳）「小さい子どもが見て、神楽をやってみたいと思ってくれたらうれしいですね」と話してくれた。

舞の系譜―

神楽が、現在もその地で受け継がれているのは、それを伝えてきた継承者がいるから。このまちで活動する8つの神楽団を紹介します。

浅原神楽団

❶　あさばらかぐらだん

団の結成は、明治６(1873)年ごろと言われる。当時、亀山神社に奉納されていた「神輿(みこし)」の彩色修理のため、旧宮内村明石に住む人が伝授したのが発端とされている。以後代々受け継がれてきたが、継承者不足のため昭和47(1972)年に子どもたちに伝授し、「浅原子ども神楽団」として継続。その後、現在の浅原神楽団として活動。団員は現在16人。現在は十二神祇舞(じんぎまい)に加え、六調子系・八調子系の神楽を取り入れている。

伊勢神社神楽団

❷　いせじんじゃかぐらだん

文政２(1819)年に記された佐伯郡原村の「書出帳」に記され、古い歴史を持つ神楽。団員は現在32人で、氏神である原の伊勢神社の秋祭りを中心に舞う。特徴的なものに、全国でも珍しい「将軍舞」がある。「天臺(てんだい)将軍」と呼ばれるその舞は、鎧姿の将軍が弓の端で天蓋の五つの袋の米を落とし、激しく舞う。最後に弓を放ち、その瞬間に神がかりの状態になる「死入(しにいり)」や「死舞(しにまい)」と呼ばれる珍しい舞である。

河津原神楽団

❸　かわづはらかぐらだん

河津原では、明治10(1873)年ごろには、神楽の奉納が行われていたと言われ、130年に渡って受け継がれる。元来は「十二神祇」と呼ばれる神祇舞で、氏神である河津原八幡神社への奉納神楽で、幣(へい)や幡、扇などによる払い清めを基調に、舞の美を見せるものだったが、近年では「十二神祇」を伝統と歴史ある舞として保存・継承するとともに、高田舞や石見神楽を取り入れ、独自の新しい舞の創造にも取り組む。団員は現在15人。

玖島神楽団

❹　くじまかぐらだん

昭和53(1978)年に有志数名で発足。当時は衣装も道具もなく、まったくのゼロからのスタートだったが、地域の方々の支援もあり、今に至る。安芸高田市高宮の原田神楽団に指導を受け、阿須那(あすな)系八調子の新舞、旧舞を舞っている。今年で結成34年になり、高校生、社会人の若い団員も加わり、20人で活動。イベントや神社の奉納、各施設の訪問などボランティアも含め、多い年は年間20回以上の上演を行っている。

栗栖神楽団

❺　くりすかぐらだん

昭和32(1957)年、栗栖地区の若者が郷土の発展のため栗栖神楽団を発足させた。矢上系山県舞を学び、現在に至る。団員は20人で、氏神である栗栖の河内神社の秋祭りを中心に、競演大会にも多数参加。世帯数の少ない栗栖地区だが、地域の方のあたたかい支援を受けながら活動中。後継者の育成、また地域発展のため、平成19年に子ども神楽団を発足し、活動の範囲を広げている。

津田神楽団

❻　つたかぐらだん

文化３(1806)年に書かれた神楽舞「天臺(てんだい)将軍」の言い立てが神社に保存され、また天保７(1836)年10月９日夜、花上黄幡(はながみおうばん)神社で神楽執行などと記述された文書が残されている。明治の末ごろまでは夏から秋にかけて盛大に舞われていたが、その後衰退、復興を繰り返し、昭和52(1977)年以降、現在に至る。石見神楽矢上系に属し、津田八幡神社を氏神として、団員14人で活動。

原亥の子舞子連中

❼　はらいのこまいこれんちゅう

亥の子祭の起源については定かではないが、古事などから慶長年間だと言い伝えられている。もともとは伊勢神社で舞う神楽を子ども用にやさしくして各町内会に下ろしたもので、五穀豊穣に感謝する十二神祇の古式舞。戦後、少子化などの影響で森宗地区だけが残り、平成元(1989)年に地区の枠を取り、現在に至る。理解は難しいが、口上などは昔ながらの言葉を使い、歴史を知るということは大事だと活動中。団員は現在14人。

吉和神楽団

❽　よしわかぐらだん

吉和地域で古くから伝わっていた神楽。地域に根差した文化の継承を願って、地域の有志や若者たちが集まり、昭和54(1979)年に神楽団を復活させた。十二神祇系の旧舞を主としていたが、最近は新舞も取り入れ、各共演大会や、奉納神楽など、活発な活動を続けている。また、子ども神楽団を平成11(1999)年に発足。吉和神楽団員の指導により伝統芸能の継承を続けている。団員は大人27人、子ども15人。

各神楽団の練習風景。写真上＿栗栖子ども神楽団。写真中＿津田神楽団。写真下＿吉和神楽団。

廿日市市内の神楽団

※50音順で紹介しています

「葛城山(かつらぎさん)」―浅原神楽団―

大和の国の葛城山に棲み、天下を乱そうとする土蜘蛛（つちぐも）。主人公の源頼光（みなもとのらいこう）が病のときに襲いかかる。妖術を駆使するが、最後は四天王に倒される。

神楽。
それは、遠い遠い昔から、
数え切れないほどの人が、
大切に、
人から人へと伝えてきたもの―。

そこには、人々が生きた証がある。
今、継承している人々が、
その姿を舞うことで、
命が吹き込まれ、
時代の語り部となる―。

このまちで神楽に生きる人を追った―。

神楽 かぐら

特集 紡いでいく―
神楽　そのとき、人は鬼になり、姫になり、神になる

―特集　15ページまで―

幼いころに見た、
舞台で舞う父は、いつも輝いていた。
その姿に憧れて、
舞台に立つと決めた。

吉和神楽団
やまもと・まさや
山本　正也さん（24歳）

お父さんが吉和神楽団に所属し、その舞う姿を見て、「いつかはあの舞台に立ちたい」と11歳で神楽を始める。吉和子ども神楽団第１期生。吉和と神楽が大好きで、「生まれ育ったこの場所でずっと神楽を続けたい」と、就職先も吉和を選んだ。団では大太鼓などの楽だけでなく、舞方も務める。

神楽で流れる奏楽は「楽」と呼ばれ、主な楽器は「笛」、「手打ち鉦」、「小太鼓」、「大太鼓（大胴）」の４種類。それぞれが主旋律を奏でる演奏の主役である。

並び方は観客席から見て手前から笛、手打ち鉦、小太鼓、大太鼓の順に座る。いつも楽器以外何も持たずに演奏するが、それは神楽には楽譜が存在しないため。太鼓はもとより、笛にも楽譜はない。奏者は前演目の全拍子を「耳」と「体」で覚えているという。

吉和神楽団の山本正也さんは、「楽の拍子は、団に入る前の小さいころから聞いているので、身体で覚えています」と笑って話す。

子どものころから大太鼓を打っていたという山本さん。最初に打った演目は「弓八幡」。それでも４カ月以上必死で練習したといいます。

楽の拍子は演目の場面によって異なり、恐ろしさや残酷さを表現する「鬼拍子」や、イメージさせる善役と悪役の壮絶な対決シーンを表現する「立ち会い拍子」など、演目で流れる楽は神楽の「核」と言われるほど重要な存在。「場面に応じた楽の強弱は、神楽の見どころの一つです。特に合戦の場面では、生死をかけて闘う者同士の激しい戦闘を表現します。楽が出す掛け声にも注目してみてください」。

「同じ団員でも、楽に携わっていない者には、楽はできない。それほど難しいものなんです」と団員の一人は言う。

「先輩から教えられたことを今の子どもたちに全て教えたいと思っています」と後進の指導にあたる山本さん。

「舞と奏楽で、観客と一体になれるのが神楽の魅力。それぞれの人が絡み合って完成する舞台を見てほしいです」と話す。

神楽人 壱
楽（がく）

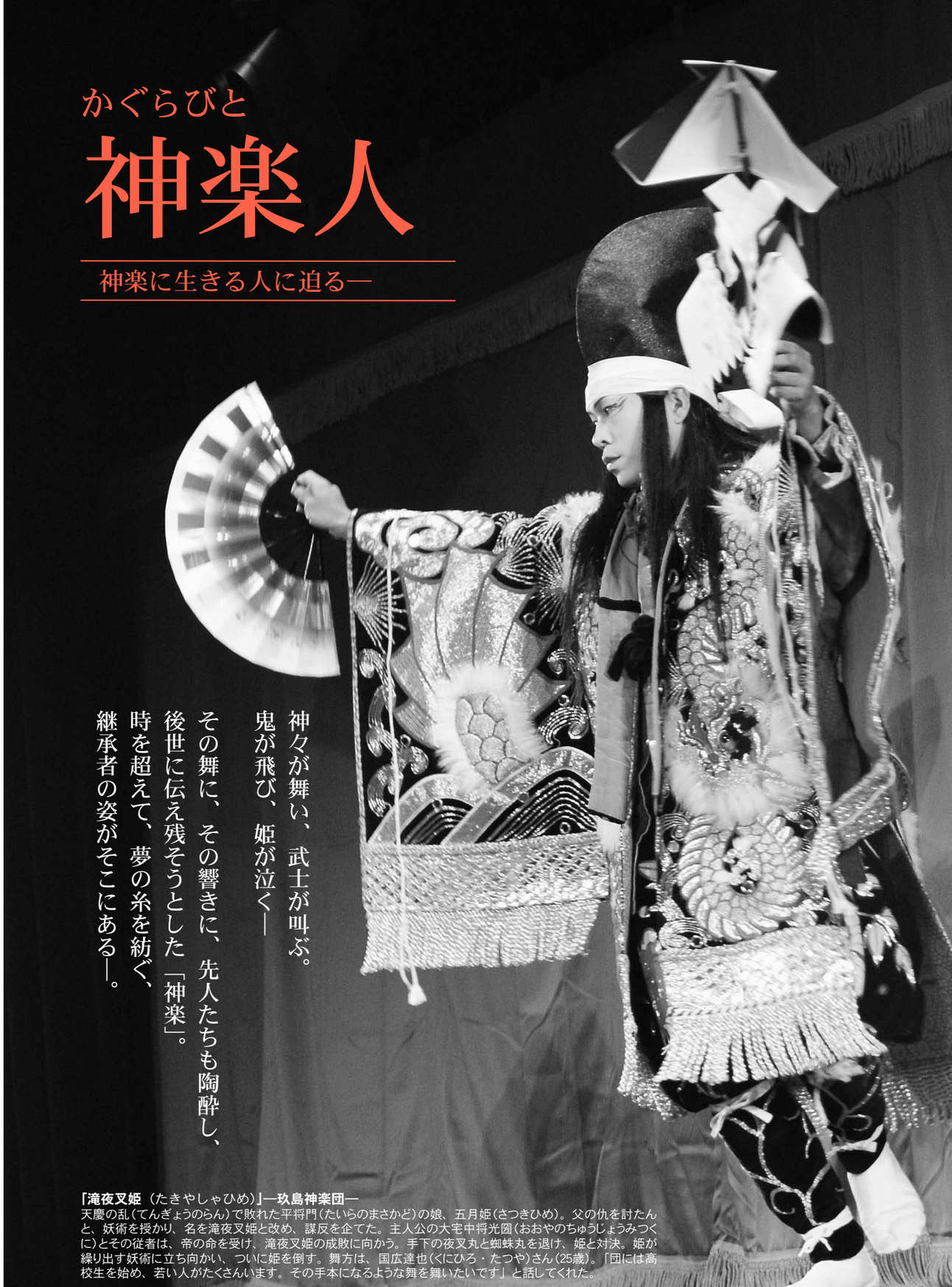
「楽」に始まり、「楽」に終わるといわれる神楽。
ときに神々しく、ときに哀しく、
あるときは激しく、弾け飛ぶような強さで―
まるで遺伝子に組み込まれているかのように、
音のする方へと足を向かせる「楽」。
演目で流れる奏楽は、
神楽の核と言われるほど重要な存在である。

音曲担当のスペシャリスト

大太鼓を打つ山本さん。斬り合い、回転など激しい舞を急テンポな拍子で肉薄する場面は圧巻。体が震えるような音が飛んでくる。舞に引き込まれるのも、この楽があってこそ。

かぐらびと
神楽人
神楽に生きる人に迫る―

神々が舞い、武士が叫ぶ。
鬼が飛び、姫が泣く―
その舞に、その響きに、先人たちも陶酔し、
後世に伝え残そうとした「神楽」。
時を超えて、夢の糸を紡ぐ、
継承者の姿がそこにある―。



「滝夜叉姫（たきやしゃひめ）」―玖島神楽団―
天慶の乱（てんぎょうのらん）で敗れた平将門（たいらのまさかど）の娘、五月姫（さつきひめ）。父の仇を討たんと、妖術を授かり、名を滝夜叉姫と改め、謀反を企てた。主人公の大宅中将光圀（おおやのちゅうじょうみつくに）とその従者は、帝の命を受け、滝夜叉姫の成敗に向かう。手下の夜叉丸と蜘蛛丸を退け、姫と対決。姫が繰り出す妖術に立ち向かい、ついに姫を倒す。舞方は、国広達也（くにひろ・たつや）さん（25歳）。「団には高校生を始め、若い人がたくさんいます。その手本になるような舞を舞いたいです」と話してくれた。

「鐘馗（しょうき）」―河津原神楽団―
四季折々いろいろな疫病をはやらせて、この国を魔の国にしようと大暴れする疫神。上杉さん作成の面。

神楽人 弐
面（めん）

キラリと光る匠の技

神楽の面は、
鬼や鬼女、狐や妖怪といった悪者だけでなく、
姫や翁など、登場人物を分かりやすく表現している。
そのため、魔界に棲む鬼は、
この世のものとは思えないほどの凶暴さと不気味さを、
ひょうきんな道化には、
噴き出してしまうようなユニークさを追求。
舞方が役になりきるために、面は欠かせない―。

工業製品ではないため、一つ一つその表情は異なり、まったく同じ面は二つ存在しないという。基本的には消耗品だが、手入れや補修をすれば50年は持つという。

面を使う舞台芸の一つ。昔は木製のものも使われていたが、現在は「紙製」が主流。張子面であるため、木彫りの面に比べ軽くて丈夫なのが特徴。同じ面でも、舞方次第でその表情を変える面は、神楽において、なくてはならないものだ。

河津原神楽団の団員として活動してきた上杉直實（うえすぎなおみ）さんは、独学で面作りの道を切り開いてきた。旧佐伯町職員としても、当時心和寮の指導員をしていた昭和55年ころに、老人のボケ防止のために面作りを取り入れたのが、そのきっかけという。

その後、その知識を生かして神楽の面を作り始めるが、「当初は神楽で使うためでなく、もっぱら飾ったり、人に贈ったりするために作っていた」とのこと。現在では、所属する河津原神楽団から頼まれて作ることもあるそうだ。

面作りは、まず石膏（せっこう）の原型から粘土で型を取り、その粘土に和紙を張っていく。それを乾燥させてからこすり、また和紙を張り重ねる。そして、その作業を20回以上も繰り返した後、粘土を割って面を取り出す。

彩色の際の表情づくり、特に「目」が一番難しく、鬼の面であればいかに恐ろしくさせるかが腕の見せどころだという。

「鬼の面を作るときは、気持ちも鬼になっています。鬼といっても、男の鬼と女の鬼で作るときの気持ちがまた違うんです」と上杉さん。商売にはしていないため、気分が乗らないときは、なかなか進まないといい、一つの面が出来上がるまで数カ月掛かることもあるとか。

「神楽があることが河津原の誇り。神楽にも終わりがないように、面作りも終わりがない世界。団の要望に沿った面を作ることで、神楽を支えていきたい」と語ってくれた。

河津原神楽団
うえすぎ・なおみ
上杉　直實さん（61歳）

昭和50年、25歳のとき仕事で神楽と関わったのが、団に入ったきっかけという上杉さん。しかし、その根底には「小さいころ、父が舞っていた神楽に憧れていたから」だという。「娯楽の少ない当時、この地域では芝居と盆おどり、そして神楽は最高の娯楽だった」と当時を振り返る。

右が石膏の原型。左の粘土の型の上に和紙を張っていく。水で張り、原型からはがしやすくする「水張り」と糊で張る「本張り」がある。

「葛城山」―浅原神楽団―
病にかかった主人公の源頼光（みなもとのらいこう）は、侍女に化けた土蜘蛛に毒を飲まされるが、苦しみながらも反撃。頼光は四天王を呼び寄せ、土蜘蛛を退治する。写真は、源頼光を舞う坂田さん。写真提供＿酒井恵子さん（浅原）。

戦いの勝利に喜ぶダイナミックな「嬉し舞」。

神楽の「舞」には、大きく分けて神様をお招きする「神祇舞（じんぎまい）」と、お迎えした神様を楽しませる「能舞（のうまい）」の2つに分かれる。通常、まず神祇舞を行ってから、次に能舞へと進む。

勧善懲悪のストーリーが多い能舞は、大きく分けると「道行き」、「さぐり」、「からみ」、「立ち会い」、「嬉し舞」という順序で構成され、その役ごとに、さまざまな所作が繰り広げられる。

「葛城山で主人公の源頼光（みなもとのらいこう）を舞うときなどは、貫禄のある立ち振る舞いに気を付けるなど、その役になりきって舞っています」と、浅原神楽団の坂田雅也（さかたまさや）さん。「演目の時代背景や、その役のことを調べるのも面白いですね」。知識が広がると、その分、舞にも影響するといい、他の神楽団の公演もたびたび見に行き、神楽の勉強は欠かさないとのこと。

「合戦で勝利したあとに舞う『嬉し舞（うれしまい）』では、複数で回転しながらスピードのある舞を舞います。腕の角度や、首の残し方、足さばきなど、息がどこまで合っているかが勝負です」と坂田さん。「自分の思い通りに舞えて、拍手をもらえたときが最高の瞬間です」。

子どもが少ない浅原地域では、後継者の育成が切実な問題となっている。「永い歴史のある神楽です。わたしたちの代で廃（すた）れさせる訳にはいきません。わたしたちの舞を見て、少しでも興味を持ってくれたら」と坂田さん。

「友達や知り合いから『神楽が見たいから、まつりには帰ってくるよ』と言われると、やっぱりうれしいですね。神楽をやってて良かったと心から思います」と語ってくれた。

神楽人 参
舞（まい）

「静」と「動」を操る舞台の柱

「舞」は奏楽とともに、神楽を支える大きな柱。「約束事の世界」で、アドリブがないのが「舞」。そこには、執り行う順序や所作（動作）など、さまざまな決まりが存在する―。

複数での激しい合戦の場面でも、寸分の狂いなく舞う姿は、稽古に稽古を重ねた賜物（たまもの）である。

神楽は、地元への恩返し

浅原神楽団
さかた・まさや
坂田　雅也さん（24歳）

保育園のお遊戯がきっかけで興味を持ち、小学校２年生で始めた。９歳で演目「牛若丸（うしわかまる）」の主人公を舞う。そのため、高校生のころまで髪を腰まで伸ばしていたという。「神楽は生活の一部。神楽のない生活は考えられません」と、就職も地元を選び、「生まれ育った地元に神楽で恩返しがしたい」と話す。

大元神楽市山神友会（島根県江津市）

松原神楽社中（島根県浜田市）

上沼田（うえぬだ）神楽保存会（山口県岩国市）

備中神楽成羽（なりわ）保存会（岡山県高梁市）

阿刀（あと）神楽団（広島市）

梶原（かじはら）神楽団（安芸太田町）

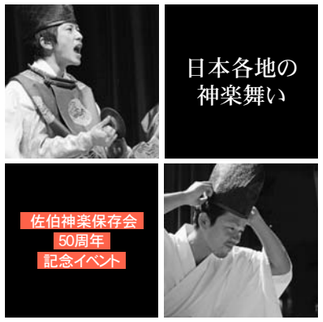
三作（みつくり）神楽保存会（山口県周南市）

原田神楽団（安芸高田市）

写真＿1　「お神楽」　河津原神楽団（廿日市市）
神様と観客の皆さんをつなげる楽と舞である「お神楽」。舞方は、竹内健（たけうち・けん）さん（32歳）。「わたしも神楽を始めて20年以上が経ちますが、それよりずっと前から続いてきたものです。今、わたしたちが続けられるのも先人のおかげです」と話す。

写真＿2　「十羅刹女（じゅうらせつにょ）」松原神楽社中
海外から日本に攻め込んで来た「彦羽根（ひこはね）」という名の鬼女。このあと須佐之男命（すさのおのみこと）の末娘、十羅刹女に退治される。

写真＿3　「悪魔払い」　玖島神楽団（廿日市市）
悪切りとも呼ばれ、病魔や火事、天災など見えない悪を切る舞。古くから伝わる舞で、昔は病気になったときや、新築の際の魔除けとして舞われていた。舞方は、国広達也さん。



写真＿4　会場では、昔の神楽道具も展示。写真は、一丁田（いっちょうだ）神楽団（玖島）で使われていた道具。当時、誰から教えてもらったか、どこで舞ったかなど、すべての記録が書かれている帳面も存在。団員が保証人となり、団でお金を借りたという記録も残る。先人が苦労して神楽を伝え残そうとしたのが伺える貴重な資料。
写真＿5　ハングマーサンと神楽保存会のコラボで生まれた「神楽まんじゅう」も登場。パッケージは保存会が制作。完成には1年を要したという。
写真＿6　会場外では、全国各地から集まった神楽団ゆかりの地の物産展が開催された。

－Interview－
会場で聞きました

写真右から、山根トミエさん、高山直暉（なおき）くん、梓（あずさ）さん。

「小さいころからまつりで神楽に親しんでいました。孫に神楽を見せたかったので」と、家族三代で神楽を見に来た山根さん一家。「手の先、足の先まで全身を使って力強さを表現するところ」が魅力とのこと。「近くで行われる大会には、結構足を運んでいます」と話してくれた。

写真右から、大谷直美さん、拓光（たくみ）くん。

広島市で神楽団に入っているという拓光くん。「同じ演目でも、違うところがあるので勉強になりました」。直美さんは、「どこの地域でも、神楽は地域の財産。大切にしていきたいですね」と話してくれた。

佐伯神楽保存会　元会長
うえだ・じょう
上田　穣さん（54歳）

佐伯神楽保存会が発足して今年で50年。旧佐伯町時代に町内の神楽団で結成された保存会は、現在も毎年、共演大会を催すなど活動を続けている。
その50周年を記念し、さくらぴあで「日本各地の神楽舞い」を行った。市内3団体を含む全18団体が参加。節目の晴れ舞台を華やかに飾った。
繁栄と衰退を繰り返してきた保存会。当初は、中村神楽団、一丁田神楽団も存在し、歴史を重ねてきた。高校生のころから会と関わってきた上田穣さんは、「50年を迎えることができたのも、始める人がいたからこそ。地元に神楽があったから、ここまで関わってこれた」と話す。
団によって生い立ちが違うので、それぞれの良さがあるという神楽。「神楽は生きている文化。続けていくには伝統を大事にしながら、進化していかなくてはならない」と上田さん。
「わたしたち神楽に生きている人間は、神楽でしか表現できません。神楽を通して、皆さんにどんなアプローチができるか、常に考える責任があります」と話してくれた。

神々が舞い降りた日―

9月16日・17日、さくらぴあ大ホールに神々が舞い降りた―。
伝統を守り、進化を目指す佐伯神楽保存会が発足して50年。
市内からの3団体を含め、日本各地から集まった18の神楽団が、
節目の晴れ舞台で舞った。
その様子をカメラが追う―。

「日本各地の神楽舞い」
佐伯神楽保存会50周年記念イベント

佐陀神能（さだしんのう）保存会（島根県松江市）

有福（ありふく）神楽保持者会（島根県浜田市）

岩国行波（ゆかば）の神舞保存会（山口県岩国市）

伊賀和志（いがわし）神楽団（三次市）

砂庭（さにわ）神楽団（北広島町）

淡路神楽　伊弉諾（いざなぎ）神宮（兵庫県淡路市）

浅原神楽団（廿日市市）

高千穂の夜神楽（宮崎県高千穂町）

神楽の存在は、地域なくしてはありえない―

神楽の未来を探る 1 ―浅原神楽団―

「神楽の伝承は、地域なくしては成り立たちません」。浅原神楽団の副団長久保哲平さんはそう語る。浅原神楽団では、毎月1回地域を清掃するほか、敬老会などの無料公演など「地域完全密着型神楽団」を目指し、活動の指針を打ち出している。

「神楽が見たいが、夜はなかなか出られない」という人のために、昼の公演である「ふるさと神楽公演」を6月に行うなど、地域の要望を満たした活動を続けている。

65歳以上の一人暮らしの方を戸別訪問し、話を聞く「ヒアリング」と呼ばれる活動もその一つ。神楽団として、地域の方々の求めることを吸収し、それを生かしていこうとする活動だ。

「もちろん初対面の方がほとんどですが、『どこそこの家の孫です』と伝えれば、『まあ大きくなってから』と見守ってくれていたことを知らされ、一気に距離が縮まります」と久保さん。

そこから生まれたのが神楽公演の送迎だという。「神楽に行きたいけど歩いて行くのは…」といった意見があったことから取り組み始めたとのこと。敬老会が行われた9月9日、敬老会のスタッフと一緒に各地区を回り、送迎を行う団員の姿がそこにあった。参加者の一人は「とてもありがたいこと」と話す。

実はこれらの活動は、久保さんを始めとする若手団員からの強い要望で実現したという。

「神楽団は今まで地域に支えられてここまで来ることができました。これからは、地域に恩返しをする番です」と、久保さん。今後は、小中学校への公演などにも力を入れたいとのこと。

「ちょっとしたことですが、少しずつでも、地域のためにできることから始めたいと思っています」と、話してくれた。

写真1＿右から、久保哲平さん、坂田雅也さん、沖野明彦さん。３人の提案から、「地域完全密着型神楽団」を目指す活動を展開している。写真2＿敬老会に参加するお年寄りの送迎をする浅原神楽団の団員。これも「地域完全密着型神楽団」を目指した活動の一つ。写真3＿９月９日に浅原市民センターで行われた敬老会。多くの参加者が神楽を楽しんだ。演目「恵比寿」。

山の中にこだまする太鼓や笛の音に誘われて、たくさんの人が集まる浅原亀山神社での奉納神楽。弾き飛ばすような楽の響きと掛け声、そして鳴りやまない拍手は、未明まで続く。

「塵倫（じんりん）」―浅原神楽団―

浅原市民センター
めだかの会
つちの・くみこ
土野　久美子さん

神楽衣装の補修でつながっています―

神楽の舞は激しいため、その衣装は痛みやすい。めだかの会の土野久美子さんはある日、神楽団からその衣装の補修を依頼された。めだかの会は、手芸教室も行っている女性のサークルだ。

「金糸や銀糸の補修は無理ですが、ほころんだところなら直せます。わたしたちにもできることで協力したい」と、土野さんは喜んで引き受けたという。

「自分たちが直した衣装で舞う姿を見るのは楽しいですね。直したところが目立たないか、ほかにほつれているところがないか、それからは、神楽を見る目が違ってきました」と笑って話す土野さん。

地域と神楽団のつながりが、そこにもあった。

河津原八幡神社秋まつりでの「渡御式（とぎょしき）」。神社で神事を終えたあと、お神楽が奉納される。そして、渡御行列が笛や太鼓の優雅な音色を響かせながら、ゆっくり大歳神社へと向かう。昭和41年撮影。写真提供＿上杉直實さん（河津原）。

思い起こせば―

神楽はいつも、
「ふるさと」と
共にあった―。

「神楽が見たいから、
まつりには帰ってくるよ」
郷土を離れて暮らしている人も、
地元の神楽を楽しみにしています。

神楽が、その地で
永く受け継がれてきたのは、
人々の日々の暮らしのすぐそばに
存在していたから―。

写真1＿「助けてー」。友和保育所の節分に、神楽の「鬼」が登場。昭和58年２月撮影。 写真2＿「気を付けて運転してくださいね」。交通安全運動で「鬼」が啓発に一役買います。昭和59年９月撮影。 写真3＿友和幼稚園の節分に登場した「鬼」に園児たちは大喜び。昭和61年２月撮影。 写真4＿友和小学校で行われた第22回神楽舞共演大会。旧佐伯町内神楽団共演による「大蛇（おろち）」。昭和58年11月撮影。

わたしたちには、残していく責任がある―

神楽の未来を探る　2　―伊勢神社神楽団―

約200年の歴史を持つ伊勢神社神楽団。
その歴史をひもとくと、
約20年もの間、途絶えていた時期がある―。
しかし、「神楽は地域の大切な宝物」と、
神楽団を復活。
その団長に、お話しを伺った―。

伊勢神社神楽団　団長
たけもと・まさひろ
竹本　政博さん（62歳）

伝える人がいなくなれば、そこで終り―。人から人への伝承は、そんな「もろさ」も含んでいるんです。

軽快な笛の音に、体に響く太鼓の音。伊勢神社神楽団の練習は、原にある眺楽座で行われている。団員は現在32人。練習は活気に満ちている。

しかし、約200年の歴史を持ち、全国でも珍しい「将軍舞」という舞を受け継いでいる同団は、昭和30年ごろから約20年間、その活動が途絶えた時期があったという。

小さいころに地元のまつりで神楽を見て育ったという団長の竹本政博さんは、神楽の復活を切望する地域の青年団から声を掛けられ、27歳のときに団を復活させたという。

「わたしは神楽の経験がなかったので、まだ地元に神楽を覚えている人がいるうちにと、教えを請いました。笛や太鼓、舞、どれをとっても1年や2年で覚えられるものではありません。たくさんの人に支えられ、なんとか復活することができました」と、当時を振り返る。

当初の団員は、以前、大人の前座で舞っていた子どもたち。その子どもが大きくなり、復活に尽力した。

復活にあたり、地域の支えが大きかったという竹本さん。「衣装や太鼓などを揃えるだけでも莫大な金額が必要です。ある程度のものが残っていたことと、地域がそれを支えてくれたことが大きな要因です」。

「一度途絶えてしまうと、復活させるには甚大なエネルギーが必要です。だから、廃れさせてはならない」と強く語る。

「伝える人がいなくなれば、そこで終り。人から人への伝承は、そんな『もろさ』も含んでいます。だからこそ、一生懸命伝え残そうとしている姿が輝いて見えるのかもしれません」。

秋まつりに合わせて練習を始める同団。就職などで外に出ている団員も、秋まつりの時期には帰ってくる。「地域の人もまつりで神楽を見ることを楽しみにしてくれています。団員もそれが分っているから、時間を作ってまつりに臨みます。口には出さないですが、そんな心の約束をみんなで守っています」。

『荒平（あらひら）』、『所務分（しょむぶん）』、そして『将軍舞（しょうぐんまい）』など昔の舞が残っているのは、わたしたちの誇り。神楽を地域の皆さんの前で舞えるということが、この上ない喜びです」と語る竹本さん。

現在は、小学校からの依頼で、高学年を中心に、毎年神楽の講習を行い、地域文化の継承・普及に努めている。

「わたしたちには、残していく責任がある」竹本さんは力強く語る。今年、2人の団員に子どもが生まれたそうで、「その子たちも神楽に興味を持ってくれたらうれしいですね」と、目を細める。

写真1＿秋まつりに向け、練習に励む団員。この時期は、普段離れて暮らす団員も時間を作って集まる。演目は「荒神（あらかみ）」。写真2＿まだ団に入っていない小さい子もいる。親のまねをして、幼いころから目と耳で覚えたリズムは、身体に染み込んでいく。

舞の遺伝子―

始めたきっかけは、人それぞれ。
しかし、誰にも小さな覚悟を決めた日がある。
「ここで神楽をやる」と―。
このまちで神楽に取り組む、幼き伝承者の声を聞く―。

栗栖子ども神楽団
まつもと・みずき
松本　みずきさん（小学6年生）

神楽団の礼儀正しさも、団に入った大きなきっかけです

小学４年生のとき、栗栖子ども神楽団の舞いを見て感動し、すぐ入団を決意したという松本みずきさん。当時、女の子が主人公を舞うのを見て「わたしもそれがやりたい」と思ったそうです。

現在、練習している演目は「大江山（おおえやま）」。松本さんはその中で紅葉姫を舞う。「姫の役をもらえて正直にうれしいです」しかし、神楽で女性の役を女性が舞うのは難しいとのこと。「内またでの足さばきや所作など、注意することが多いです」と話す。

礼儀を大切にしている同団。「礼に始まり礼に終わる」という精神を大事にしている。そんな礼儀正しい姿勢も、松本さんの入団する大きなきっかけになったという。

神楽を続けて「楽しい」と言い切る松本さん。「友達から、『すごいね』って言われることもあります。神楽団に入ってよかったです」と話してくれた。

演目「大江山」。栗栖集会所で行われる練習。小さな子どもまで、熱が入った練習を続けている。

吉和子ども神楽団
やまだ・こうき
山田　光輝くん（小学6年生）

お父さんのように、華麗に、豪快に「鬼」を舞いたい

小さいときからお父さんが舞台で舞う姿に憧れていたという山田光輝くん。小学２年生のときに入団。

今は、鬼の役を主に任されている。子どもとはいえ、演目は大人のものと変わらない。口上など、難しい言い回しも必死で覚えた。

「鬼の怖さを表現しようと努力していますが、実際にお客さんからは、どのように見られているのか不安もあります」と山田くん。大人と一緒に練習するので、細かく教えてもらっているそうだが、「合戦のシーンなど、複数での立ち会いの際の足さばきは難しいです」と話す。

一つ間違えると、演目そのものが駄目になってしまう。そのため、一人一人が持つ責任は大きいとのこと。

「『いい舞だったよ』と褒められるのがうれしいです。ずっとこの吉和で神楽を続けていきたいです」と話してくれた。

保育園の園児もいる吉和子ども神楽団。中学校を卒業すると、そのまま大人の団で活動する。

原亥の子舞子連中
かわもと・あい
川本　愛さん（小学6年生）

舞台で、お客さんが喜んでくれたときが一番うれしいです

祖父、父と３代続いて原亥の子舞子連中で活動する川本愛さん。お兄さんとお姉さんもしていたそうで、「気が付いたら神楽をやっていた」とのこと。小学２年生のときには、演目「一本むき」を舞い、現在は注連口（しめぐち）など、言い立てのある舞を舞う。

春に稲を植え、秋に米が取れたことに感謝の気持ちを表すのが亥の子舞。奉納のための神楽だ。団長の川本恒雄さんは、「必ず将来の良い経験になる」とその意味を折に触れて子どもたちに説明するという。

「ただ舞えばいいというものではなく、腕の引き方、足さばきなど、どれひとつとっても難しいです」と川本愛さん。

「練習は決して楽しいものではありませんが、本番の舞台でうまく舞え、見てくれたお客さんが喜んでくれたときが一番うれしいです」と話してくれた。

演目「恵比寿舞」。両手に３本ずつの八百萬神（やおよろずのかみ）と書かれた恵比寿旗を持って舞う。

栗栖子ども神楽団　団長
くろだ・ゆうじ
黒田　祐二さん（37歳）

大人でも、本気で舞ったあとには、涙を流すこともあります。そんな姿を見てほしい。

どこの神楽団も後継者不足という問題を抱えています。後継者がいなければ、神楽が途絶え、地域の大事なものを失ってしまいます。だからみんな必死で頑張っているんです。

子どもは大人の姿を見て育つといいますが、大人が本気にならないと、子どもは本気になりません。わたしたちも、本気で舞ったあとには、涙を流すこともあります。そんな姿から、子どもたちに何かが伝わればと思っています。

その舞は、未来へ—

山の恵み、里の祈り、神の子の舞—。
先人たちから受け継いだ「大切なもの」は、
そーっと、そーっと、子どもたちへと伝わっていく。
その小さな手から紡ぎ出されるものは、
やがて長く、切れない糸となる。
ずっと、ずっとその未来、
その舞が、その響きが、その魂が、
誰かの心を震わせるとき、
そこから、また、新たな糸が紡がれていく—。

小高い山の上にある河津原八幡神社で練習に励む河津原神楽団の団員たち。演目は「牛若丸」。同団では、代々主人公の牛若丸を舞う者は髪を腰まで伸ばしている。四代目牛若丸の良玄幹基くん（りょうげん・まさき　写真右）は、小学６年生。「大人の人たちが舞台で舞っているのを見て感動し、自分もやってみたいと思いました。練習は厳しいですが、舞ったあとにお客さんからもらえる拍手が最高です」と良玄くん。団員の一人は、「神楽には、いろんなものが詰まっています。だから、子どもたちに本当に伝えたいのは、技術だけでなく、その想いなんです」と話す。

—河津原神楽団—

第50回佐伯神楽共演大会

とき　11月3日㈯
ところ　津田小学校体育館

※入場無料
※学校内は、禁酒・禁煙
※出演団体・演目などは、決まり次第「佐伯神楽保存会」のホームページに掲載します

問合せ　佐伯神楽保存会広報部
☎090(3634)3939

たくさんの人に、
吉和の良さを知ってもらいたい―。

そんな思いから生まれた
「吉和おさんぽギャラリー」
手作りの雑貨、採れたての野菜、
縁側からの風景、自然と暮らす人々―。
吉和の魅力を28カ所の
「自宅開放型」展示会でお届けします。

と　き
10月**6**日(土)・**7**日(日)
10時～16時

ところ　吉和地域全域

問合せ
吉和おさんぽギャラリー実行委員会
吉和市民センター内☎⑦2116

※当日は、吉和おさんぽギャラリー実行委員会本部（吉和市民センター）でマップを受け取り、各出店会場をまわってください（駐車場あり・15時30分まで受付）

昔ながらの家、道具、風景―ありのままの吉和を感じてください

市街地から車で約１時間。山村地域の吉和では木造家屋や縁側、古道具、農作業の風景などが昔から変わらず残っています。そんな風景もギャラリーの作品です。

吉和ライフで生まれた個性的な作品が出展されます

近年、著しい人口減少がすすむ吉和地域。「もっとたくさんの人に吉和の良さを知ってもらいたい」との思いから、立ちあがったのが「吉和おさんぽギャラリー実行委員会」。メンバーは30代の女性が中心の６人で、４月に発足した。

当日は、企画に賛同した28軒の個人宅などを開放。その家の住人が作成した絵画や陶芸などの作品を展示・販売するだけでなく、縁側の残る昔ながらの民家や、農作業で使う道具なども見ることができる。

「自然や風景や空気、そこに住む人たちの温かさなど、ありのままの吉和の良さを結びつけたイベントを行うことで、地域を元気にするお手伝いができたら」と、他のまちで行われた自宅開放型の展示会を参考に企画した。

「作品を見るだけではなく、出展者との会話や触れ合いを通して、そこで生活する人々の暮らしや、生活の匂いを感じてもらい、ありのままの吉和の魅力を知ってほしいですね」と実行委員長の吉岡真理さんは話す。

「ゆっくり時間をかけて、たくさん見てほしい」と、２日間の開催にしたとのこと。

「吉和に住んでいる人にとっても、新しい発見や地域を越えた人と人とのつながりが生まれるといいなと思っています。このイベントをきっかけに、吉和を愛する人が増えたなら、それが何より嬉しいことです」。

広い吉和地域の各所に点在する会場。車から降りて歩いて数カ所に用意。また、吉和地域の企業も温泉や美術館、アスレチックなどの割引を行い、イベントをバックアップする。

今後は、定期的に開催する予定とのこと。吉岡さんは「これをきっかけに、次の新しい動きにも期待したいですね」と話す。

子どもたちが誇りを持てる地域に―

吉和おさんぽギャラリー実行委員会
実行委員長
よしおか・まり
吉岡　真理さん

吉和地域から通える高校は一つしかありません。そのため、この地域に住む子どもの多くは、中学校を卒業すると全寮制の高校や親戚の家に下宿し、地元を離れて生活することになります。

わたしも含めて、今、この吉和に住んでいる人の多くは、一度はこの吉和を離れています。だけど、帰ってきたのもやっぱりこの吉和が好きだから。

いずれこの地を離れる子どもたちが、「出身はどこですか」と聞かれたときに、「吉和です」と誇りを持って言ってほしいですし、そう思えるような地域にすることがわたしたちの役目だと思っています。

吉和の生活の匂いを感じてほしい―

吉和おさんぽギャラリー実行委員会
副委員長
えだ・あい
江田　愛さん

吉和にはいいところがたくさんありますが、それを発信する難しさを感じていました。個人で何か取り組んでいることがあっても、それを知ってもらう機会が今まで、あまりなかったので、このイベントを機にどんどん発信していきたいと思っています。

吉和地域が一体となっての大きなイベントになったのも、たくさんの方がこの企画に賛同され、協力していただいたおかげです。

吉和に住んでいますが、地域のつながりがとても強く、地域に育ててもらっていると感じることが多いです。そんな吉和の生活の匂いを感じてほしいですね。

Special　Offers

ギャラリー来場の方へ特別サービス
本部で配るパンフレットを持参してください

■クヴェーレ吉和　クアガーデン・温泉入浴料
通常1,680円→**500円**
水着着用の男女混浴風呂。

■ウッドワン美術館　本館・新館共通入館料
通常1,500円→**1,200円**
秋の展覧会「中島千波展～宮尾本『平家物語』の挿画と花々の宴～」を開催。

■魅惑の里　温泉「水神の湯」入浴料
通常550円→**300円**
森林が見渡せる露天風呂がイチオシ。

■潮原温泉　温泉「功徳の湯」入浴料
通常600円→**400円**
５階展望露天風呂のほか、８種のお風呂。

■もみのき森林公園　アスレチック入場券
高校生以上　通常600円→**500円**
小中学生　通常400円→**300円**

吉和おさんぽギャラリーMAP

① **エレファントスイーツ** 片山直子さん　岡真由美さん カフェと手作り雑貨のお店	⑧ **吉和の写真展** 冨野順一さん 吉和のさまざまな景色を撮影	⑮ **古道具** 小田豊司さん 断捨離の逆をゆくお宝倉庫	㉒ **パッチワーク／喫茶** 縄田美智子さん 体にやさしいパンとお菓子
② **パッチワーク／喫茶** 矢野明子さん 自然に囲まれた素敵なテラス	⑨ **ミントハウス** 酒井勝彦さん・睦子さん お花溢れるカントリーショップ	⑯ **パッチワーク** 斉藤サユ子さん 91歳のおばあちゃんの作品です	㉓ **教龍寺** 兒玉文明さん 生け花と囲碁体験
③ **秋明菊の群生** 潮原温泉 白・ピンクの花が３万本	⑩ **お餅・お寿司・野菜** 岡本エミコさん 手作り味噌は本当に美味	⑰ **野の花工房** 平本直子さん つる細工体験もできます	㉔ **パッチワーク／風景** 河野シズエさん 縁側で眺める景色は絶景
④ **田舎の風景写真** 光井英水さん 写真を撮り続けて50年	⑪ **ひまわりの絵／彫刻** 吉和学園　三浦実一さん 子どもたちの芸術的ひまわり	⑱ **別荘地散歩** 谷口香代子さん 130mの地下水で淹れるコーヒー	㉕ **パステルアート** 浅井ゆかりさん 優しい色合いを楽しんで
⑤ **眞田わさび／陶芸** 真田数登さん 60歳から始めた陶芸の作品	⑫ **絵／陶芸／パッチワーク** 益本住夫さん・美子さん 自宅の窯で焼く陶芸作品	⑲ **パッチワーク／庭** 中田千都子さん 山林の中にある小さな別荘	㉖ **福島発の作品と話** 渡部美和さん おいしいちまきもあります
⑥ **三浦木工** 三浦孝治さん 豊かな日常のための木工品	⑬ **創ろう家** 吉岡利賀夫さん 絵手紙展示とそば打ち体験	⑳ **クラフト吾木香** 住田耕さん・圭子さん 染め物や木を使った雑貨	㉗ **きのこ／芋掘り体験** 古川晃さん マムシ酒試飲もできます
⑦ **専立寺** 能島美緒さん 総ケヤキの本堂と欄間は圧巻	⑭ **山野草／ログハウス** 和田義枝さん 別荘地内のログハウス	㉑ **一木一会** 長谷川明さん オンリーワンの家具・小物	㉘ **ドッグサロン　サニーガーデン** 佐藤麻友さん・由佳さん 写真展示と犬の触れ合い

はつかいち環境フェスタ2012

～みんなで取り組むはつかいちのエコライフ～

10月14日(日)
10時～14時

ところ
サンチェリーおよびその周辺

はつかいち環境フェスタ実行委員会事務局
（地域環境創造室内）
☎㉚9147

■メインアリーナ会場

●トイレットペーパー交換
飲料用パック10枚とトイレットペーパー1ロールを交換します。1人8ロールまで。無くなり次第終了。

●雑誌のリサイクル市
図書館で保存期限の過ぎた平成21年分の雑誌を1人10冊まで無料で配布します。週刊誌については平成22年分です。

●おもちゃ病院
受　付　10時～11時
壊れたおもちゃを修理します。部品代実費必要。申込多数の場合はお断りする場合あり。

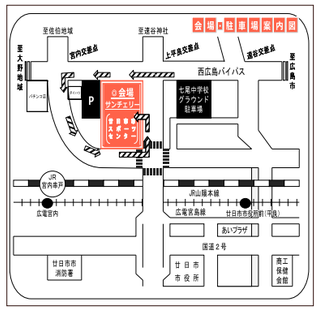
●ラムサール条約登録記念
はつかいちの宝、ミヤジマトンボの生態や、保護活動について、みんなで学習しませんか。

●参加・体験コーナー
▼クイズに答えて景品ゲット
▼マイ箸作り体験▼普段の生活をエコチェック▼アルゼンチンアリの生態と退治方法ほか。

●環境ポスター標語の表彰
生徒から募集した中で、優秀な作品を表彰・展示します。

廿日市市環境マスコット
キャラクター「ハーツ君」

※エコバッグを必ず持参してください



※自動車の方は→に添って来場してください

■サブアリーナ会場

●リサイクルマーケット
全58区画のリサイクルマーケットを開催します。堀り出しものが見つかるかも。

●地産地消コーナー
旬菜市場さくら館より、産地直送新鮮野菜を販売します。地元の野菜を選んで、ビニールハウスや輸送運搬にかかるエネルギーを減らしましょう。

●リユース自転車・リユース家具の販売
毎年好評です。早めにどうぞ。

■峰高公園会場

●『エコレストラン』
リユース食器を利用して、昼食をどうぞ。マイ箸持参で割引があるかも。食べた後は古紙などできれいにして、ごみの減量化、水の節約にご協力を。

●使用済小型電子機器回収
携帯電話、デジカメ、ゲーム機器などの使用済小型電子機器を回収します。レアメタルなど有用な金属を資源としてリサイクルするための調査に活用します。
※出せないもの（テレビ、パソコン、ゲーム機などの特定家電や回収ボックス26・5cm×16cmに入らないもの）

●エコカーの試乗・展示
※花の種、肥料や風船を配布

●自転車でエコライフ
地球温暖化防止のため、CO_2の排出が少ない自転車を活用しましょう。スポーツサイクルの試乗、展示を行います。

※「はつかいち環境フェスタ2012」は、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです

浄化槽の維持管理

10月1日は浄化槽の日です

浄化槽は、微生物の働きを利用して、生活排水を浄化する装置です。

浄化槽の維持管理には、保守点検、清掃、法定検査の3項目があり、それぞれ定期的に実施するよう、浄化槽法で義務付けられています。

●保守点検
機械や配管の点検・補修や消毒剤の補充を行います。汚水の処理方式や対象人員の区分により、実施すべき回数が定められています。一般住宅に設置されている小型浄化槽の場合は、1年に3回または4回のものがほとんどです。

●清掃
浄化槽内に溜まった汚泥を引き抜き、装置内を洗浄します。一般住宅に設置されている小型浄化槽の場合は、1年に1回またはは2回のものがほとんどです。

●法定検査
浄化槽の使用開始から3～8カ月の間に1回と、その後は1年に1回、広島県が指定した検査機関が実施する定期検査を受けなければなりません。

定期検査では、外観検査、水質検査、書類検査を行い、浄化槽の保守点検、清掃が適正に実施され、機能が正常に維持されているかどうかを定期的、継続的に判断します。

定期検査の受検手続きは、10人槽以下の浄化槽の場合は「浄化槽法定検査受検契約書」、11人槽以上の浄化槽の場合は「浄化槽法定検査依頼書」が、それぞれ指定検査機関から送付されますので、必要事項を記入のうえ、送り元の指定検査機関に返送してください。

●毎年1回行う定期検査（11条検査）の区分、料金および検査機関（平成24年度）

人槽区分	検査料金 みなし浄化槽（単独処理）	検査料金 浄化槽（合併処理）	指定検査機関	連絡先
10人槽以下（効率化検査）	5,000円	5,000円	社団法人 広島県浄化槽維持管理協会	〒730－0025 広島市中区東平塚町3番28号 ☎082(546)2168　FAX082(249)8019
11人槽以上（ガイドライン検査）	8,600円～17,600円	10,600円～21,600円	公益社団法人 広島県環境保全センター	〒731－3167 広島市安佐南区大塚西四丁目2番28号 ☎082(849)6411　FAX082(849)6422

※みなし浄化槽（単独処理）：し尿のみを処理する浄化槽（平成13年4月以降は、新設が禁止されました）
※浄化槽（合併処理）：し尿と台所などの生活雑排水を併せて処理する浄化槽
※11人槽以上の浄化槽は、人槽により検査料金が異なりますので、詳しくは、公益社団法人広島県環境保全センターに問い合わせてください

地域環境創造室
環境推進係
☎㉚9147

みんなが手をつなぐために

この欄は、市民と市職員で構成する「広報人権問題シリーズ編集委員会」が編集しています

優しさ見つけた「まち点検」

先日、身体に障がいのある方たちと一緒に廿日市の「まち点検」に出かける機会がありました。電動車いすを使用されている方、杖を使用されている方、耳の不自由な方、障がい者のご家族、みんなで電車やJRに乗り、駅やスーパーを「点検」しました。そこには、たくさんの気付きと、皆さんの優しさがあふれていました。

お互いの理解
耳の不自由な方が尋ねます。
「この段差は車いすの方が困りませんか」と。
杖を使用されている方が尋ねます。
「この障がい者用トイレのドアは、重すぎて開閉が難しくないですか」と。
車いすの方が尋ねます。
「耳の不自由な方は電車内のアナウンスが聞こえませんね。次の駅がどこなのか、分かりにくくないですか。電光表示があるといいですね」と。
正直、びっくりしました。皆さんの口から出てくる言葉は、自分の不便さや要望ではなく、自分とは違う障がいのある方々への気遣いでした。このように人を思いやる心、気遣いこそが、誰もが住みよい地域をつくる原点なのだろうと胸が熱くなりました。

改めて感じた「まちの工夫」
「駅」
車いすの方も利用しやすいように、エレベーターやスロープ、障がい者用トイレが設置されていました。車いすでの電車の乗降も申し出をすれば駅員さんが丁寧に対応してくれます。目の不自由な方のために、あちこちに点字表記がありました。耳の不自由な方にも分かりやすいようホームに電光掲示板がありました。
「スーパー」
つい先日までは、階段しかなかった所に、新たにスロープが設置されていることに気付きました。車いすの方が買物しやすいように、膝にのるサイズのコンパクトな買い物かごをお店側が用意してくれました。
日ごろはあまり意識することなく通り過ぎる「わたしたちのまち」。今回のまち点検で、地域や施設の方の工夫や努力があちこちにあると感じることができました。

私たちに必要なこと～やさしいまちづくりへ～
一方、残念な話も耳にしました。駅の障がい者用トイレのいたずらが絶えないこと。点字ブロックやスロープ上に、いつも自転車が平気で駐輪してあること。せっかく整備されていても、これでは台無しです。自分さえよければよいという他者への配慮不足。本当の生活のしづらさは、一人一人のちょっとした自分勝手な行動から生まれているのかもしれません。
決して難しいことではないはずです。ほんの少し周囲を見渡し自分にできる気配りをしてみませんか。ほんの少しの積み重ねが、きっと優しいまちづくりにつながるはずです。

問合せ
人権・男女共同推進課
啓発・推進係☎㉚9136

大正13年に開業した広電廿日市駅。
広電唯一の木造駅舎が、
周辺整備事業によるリニューアルのため、
まもなく姿を消す。
風情あふれる駅舎には、
まだ、往時を偲ばせる設備が現存。
9月8日に行われた豊年市民祭に合わせて、
さよならイベントが企画された―。

写真右上＿昭和４年の広電廿日市駅。当時は「廿日市町駅」として開業。写真提供広島電鉄㈱。
写真下＿解体が決まった現在の広電廿日市駅。

ありがとう―広電廿日市駅舎

写真右＿大正時代の雰囲気を今に伝える木造駅舎の広電廿日市駅。　写真左＿平成25年３月末に完成予定の広電廿日市駅。位置、大きさなどはイメージであり、実際のものとは異なります。

9月8日、広電廿日市駅は、これまで駅に親しんできた人たちや、鉄道ファンなど多くの人たちで賑わった。

大正13年に開業した当初は、「廿日市町駅」だった同駅。周辺整備事業で取り壊し、ホームは約50ｍ東側に移転することが決定。広電宮島線乗務員有志と、一路面電車を考える会」は、二百廿日豊年市民祭に合わせ、駅舎の「さよならイベント」を企画した。

駅舎には、昔の写真のパネル展示や、改札口の復活、記念入場証明も発行された。寄せ書きコーナーには通勤・通学で利用した思い出や、感謝の言葉など、多くの人が駅への思いをつづった。

イベントを企画した広島電鉄㈱乗務員の中田裕一さんは「新しい電車が走る中で、大正時代の駅が存在することがすばらしい」と語る。「以前は出札窓口もあり、切符を切る際のお客さんとの会話やコミュニケーションがそこにありました」と当時を懐かしむ。

駅舎の売店を営んだ和田トモエさん（90歳）は「人生の大半はこの駅舎とともに過ごしてきました。懐かしい思い出がいっぱい詰まっています」と話す。

新しいホームは、約50メートル東側に移設され、平成25年3月末の供用開始を目指す。

50年以上も駅舎の売店を続け、現在も駅前で商店を営む
わだ・ともえ
和田　トモエさん

昔はこの駅前から路線バスの発着があり、多くの人がこの駅を使いました。やはり寂しいですが、最後まで見届けたいと思っています。

広島電鉄㈱乗務員
なかた・ゆういち
中田　裕一さん

昔は駅員が駅舎に宿泊したりもしていました。やはり寂しいという気持ちが大きいですが、88年間も地域の人のお役に立てたことは立派だと思います。

65歳以上の人のインフルエンザ予防接種が始まります

申請・問合せ
廿日市市保健センター　☎⑳1610
佐伯支所市民福祉課　☎⑫1118
吉和支所市民福祉グループ　☎⑰2113
大野保健センター　☎㊹2660
宮島支所市民福祉課　☎㊹2001

インフルエンザは、高齢者がかかると気管支炎や肺炎などを合併し、重症化しやすい特徴があります。流行前に予防接種を受けることが予防の基本になります。

65歳以上の人には、予防接種にかかる費用の一部を公費で負担します。予防接種を希望する人は、表の医療機関に予約をして受けてください。

平成23年度から、新型インフルエンザ（A/H１N１型）は季節性インフルエンザと同様の扱いになり、64歳以下（一部対象者除く）の人の市での公費助成はなくなりました。

期　間　10月15日㈪～平成25年１月31日㈭（過去の流行状況から、12月中旬までに接種することをお勧めします）

対　象　次の①か②に該当し、本人が予防接種を希望する人
①65歳以上の人
②60歳以上65歳未満で、心臓、じん臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障害を有する人（障がい者手帳１級相当）

接種回数　１回　**自己負担額**　1,000円
※ただし、生活保護世帯、市民税非課税世帯の人は、自己負担額が免除になります。印鑑を持って事前に申請してください。自己負担額免除の申請は10月12日㈮から開始します。

地区	医療機関名	住所	電話番号
廿日市	明石内科クリニック	山陽園	㉜1911
	阿品土谷病院	阿品四丁目	㊱5050
	あまのクリニック	串戸五丁目	㉛5151
	アマノリハビリテーション病院	陽光台五丁目	㊲0800
	網本内科消化器科医院	平良二丁目	㉞3434
	あわや内科クリニック	佐方四丁目	㉞0288
	石橋クリニック	串戸一丁目	㉜5206
	えだひろ内科成人病クリニック	下平良一丁目	㉛1700
	おおさき小児クリニック	阿品三丁目	⑳3131
	大田整形外科	廿日市二丁目	㉛6211
	小田耳鼻咽喉科医院	宮内	㊴7733
	小山整形外科医院	大東	㉜5100
	かぎもと内科皮フ科形成外科	廿日市二丁目	㉛3831
	勝谷・小笠原クリニック	地御前二丁目	㊱0262
	勝谷医院	本町	㉛0350
	かとうレディースクリニック	阿品三丁目	㊱0135
	亀田医院	宮内	㊴2351
	きむら内科小児科医院	阿品台四丁目	㊴2238
	小林内科・泌尿器科医院	宮園三丁目	㊳5150
	斉藤脳外科クリニック	串戸二丁目	⑳1212
	さくらクリニック	宮内	㊴2201
	佐藤皮ふ科クリニック	串戸二丁目	㉞3400
	四季が丘クリニック	四季が丘五丁目	㊴5005
	じごぜんクリニック	地御前三丁目	⑳3355
	しげの整形外科スポーツクリニック	阿品三丁目	⑳3333
	仁愛内科医院	地御前三丁目	㊱3100
	せいこう胃腸科外科	佐方	㉜0070
	双樹クリニック	新宮二丁目	㉞3555
	田口脳外科クリニック	阿品三丁目	㉚7788
	たに内科クリニック	地御前一丁目	⑳3711
	田辺医院	駅前	㉜1135
	たなべ小児科	平良山手	⑳1234
	玉川クリニック	宮内	㊲2111
	とうげ外科胃腸科	本町	㉜6220
	内藤内科医院	佐方四丁目	㉜8626
	中尾医院	天神	㉜2255
	なかごう内科	上平良	㊳2210
	長谷川医院	廿日市一丁目	㉛0744
	廿日市記念病院	陽光台五丁目	⑳2300
	廿日市野村病院	宮内	㊳2111
	鼻岡内科医院	宮内一丁目	㊴6555
	半明内科クリニック	宮内四丁目	㊴0111
	ひらた耳鼻咽喉科アレルギー科	天神	㉞3828
	平田内科小児科医院	阿品台四丁目	㊴1155
	ふじかわ心療内科	下平良一丁目	㉞0035
	松浦内科医院	新宮一丁目	㉛0752
	松田整形外科	串戸二丁目	㉞1800
	宮河小児科医院	本町	㉛1703
	みたに泌尿器科クリニック	下平良一丁目	㉛5000
	むつかど内科呼吸器科	阿品三丁目	㊱2100
	八幡クリニック	串戸四丁目	㉜8118
	山根クリニック	宮内	㊳5177
	吉田内科胃腸科医院	阿品一丁目	㊱3666
	わき小児科医院	下平良一丁目	㉞0207
	村上内科医院（阿品清鈴園在籍者のみ）	阿品台一丁目	㊴1666
佐伯	天野医院	津田	⑫1181
	おおくぼ内科	永原	⑭3400
	佐伯中央病院	津田	⑫1100
	友和病院	峠	⑭0688
吉和	廿日市市吉和診療所	吉和	⑰2780
大野	青葉レディスクリニック	福面二丁目	㊿2327
	安東内科クリニック	対厳山二丁目	㊿1231
	井上内科医院	大野一丁目	㊺0600
	大野浦病院	丸石二丁目	㊹2426
	敬愛病院	大野	㊻3333
	酒井内科医院	宮島口西二丁目	㊻2334
	杉原外科医院	大野一丁目	㊺0534
	永井医院	大野中央三丁目	㊺0014
	永井内科胃腸科医院	宮島口一丁目	㊻0023
	永田内科	塩屋一丁目	㊺3323
	中丸クリニック	宮島口一丁目	㊻0550
	長谷川整形外科	塩屋二丁目	㊺1011
	松本クリニック	福面三丁目	㊻4530
	向井クリニック	前空五丁目	㊿6166
	もりもと医院	大野原二丁目	㊺0032
宮島	宮島クリニック	宮島町	㊹1770

定期的に検診を

がんは早期発見・早期治療を行えば、治らない病気ではありませんが、がん検診を定期的に受診することが重要です。市では、毎年集団・個別がん検診を実施しています。

詳細は、『平成24年度　健診のしおり』をご覧ください。

がん検診無料クーポン券

対象者には、５月30日付で無料クーポン券を配布しています。検診項目は子宮頸がん検診・乳がん検診・大腸がん検診です。

検査項目と対象者については、次の表を参照してください。有効期限内であれば、同封した一覧表（検診実施機関）の中から選んで無料で受診することができます。

検査項目

●**子宮頸がん**　問診・視診・子宮頸部の細胞診・内診
●**乳がん**　問診・視触診・マンモグラフィ
●**大腸がん**　問診・便潜血検査二日法

対象者一覧表

検診項目	年　齢	生年月日
子宮頸がん	20歳	平成３年４月２日～平成４年４月１日
	25歳	昭和61年４月２日～昭和62年４月１日
	30歳	昭和56年４月２日～昭和57年４月１日
	35歳	昭和51年４月２日～昭和52年４月１日
	40歳	昭和46年４月２日～昭和47年４月１日
乳がん・大腸がん	40歳	昭和46年４月２日～昭和47年４月１日
	45歳	昭和41年４月２日～昭和42年４月１日
	50歳	昭和36年４月２日～昭和37年４月１日
	55歳	昭和31年４月２日～昭和32年４月１日
	60歳	昭和26年４月２日～昭和27年４月１日

松山ケンイチさんらが来廿

巌島神社で大河ドラマの撮影

８月28日、ＮＨＫ大河ドラマ「平清盛」の撮影が、早朝から宮島巌島神社で行われました。

ロケ終了後には広島県推進協議会による陣中見舞いが行われ、眞野市長は「地元としても撮影は大きな喜び」と感謝の意を伝え、記念品を贈呈しました。

松山さんは「宮島は、絶対に来たかった場所であり、晩年の清盛の要の部分。ここでロケを行えた事がうれしいです」と話してくれました。

陣中見舞いでの一幕。松山ケンイチさん、上川隆也さんを囲んで。今回の撮影は、10月14日㈰の第40回目で放送される予定です。

宮島水族館入館者100万人突破

開業から１年１カ月で、入館者100万人達成

宮島水族館が９月７日、入館者100万人を達成しました。達成セレモニーが館内ライブプールで行われ、100万人目の来館者の菅信敬嗣（すがのぶたかし）さん一家（東広島市）とアシカのミーチャによるくす玉割りで100万人達成をお祝いしました。

100万人を達成した今後の水族館について塚本博一（つかもとひろいち）館長は「来るたびに新たな発見ができる展示や企画を行っていきたい」と話しました。

菅信さん（写真中央）は「まったく想像していなかったことなのでとてもびっくりしています」と話してくれました。

廿日市ライオンズクラブが善行表彰

市の文化振興、仏との友好へ石碑と絵画を市に寄附

市役所近くの交差点に市名を刻んだ石碑と、絵画２点を寄附された廿日市ライオンズクラブが、廿日市市表彰条例により善行表彰を受けられました。（９月４日付）

この寄附は同クラブ設立30周年を記念して行われたもので、絵画は市内在住の山本美次（やまもとみつぐ）さんが制作されました。１点は、フランスのモン・サン＝ミッシェルに贈られ、１点は市役所ロビーで展示します。

同クラブ会長の広藤良成さん（左）は「市民の方が安らげるように、また、両都市の交流に役立ててほしい」と話してくれました。

写真１・２　ロンドンオリンピック報告会・柔道教室。得意技である「右背負い投げ」の説明のあとは、子どもたちに直接アドバイスしました。写真３　銀メダル獲得祝賀会で、支えられた皆さんに銀メダルを披露しました。

ロンドンオリンピック柔道60kg以下級

阿品台中学校卒業生の平岡拓晃（ひらおかひろあき）選手 柔道60kg以下級で銀メダル獲得

９月15日、ロンドンオリンピック柔道60kg以下級で銀メダルを獲得した平岡拓晃選手（阿品台中学校卒業・27歳）を本市に迎えました。

阿品台中学校武道場で開催された「ロンドンオリンピック報告会・柔道教室」には、廿日市市柔道連盟各支部の子どもたち約80人が参加。平岡選手は子どもたちの練習を優しく見つめますが、時折見せる鋭い眼光は、正に柔道家。「ここは『全国』を初めて意識した場所なので、メダルを持って帰ることができて本当にうれしい」と話します。

また商工保健会館では、「銀メダル獲得祝賀会」が開催されました。大野國夫柔道連盟会長は「廿日市市で柔道を志す子どもたちにとって、大きな目標になり、感謝しています」と、あいさつ。

平岡選手は「今の自分があるのは、廿日市市で柔道をできたおかげだと思っています。柔道は個人競技ですが、前回の北京オリンピック以降の４年間、本当に多くの人に支えられてきました。皆さんのおかげで取れた銀メダルです。また次の目標に向かって頑張っていきたいと思います」と力強く話してくれました。

写真１・２　「中学生と市長のふれあいトーク」は平成９年から行われ、今年で15回目となり、出された意見から実現された事業もあります。今回も次世代を担う中学生から、地域の将来を考えた活発な意見がたくさん出されました。

中学生と市長のふれあいトーク

中学生がまちづくりなどのアイデアを市長に提言

まちづくりについて中学生と市長が意見を交換する「中学生と市長のふれあいトーク」が９月１日市役所で行われました。

中学生と市長のふれあいトークは、中学生から見たまちづくりへの意見や提案に、市長が市の考えを説明し、対話を通して中学生の市政への関心と理解を深め、意見・提案を新しいまちづくりに反映させていくことを目的とし、開催しています。

今年は市内の各中学校の代表11名が参加し、地域づくりや観光、教育などの提言を発表しました。昨年の震災から地震に対する備えや、宮島など市の観光資源についても活発な意見が交わされ、中学生の市政への関心の高さがうかがえました。

中学生からの活発な意見に対し、眞野市長は市が行っている事業を含め回答をしました。

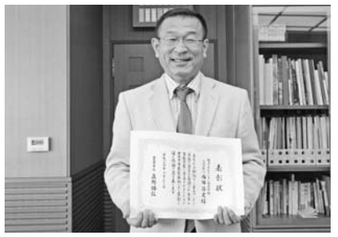
眞野市長は「これから先も廿日市市のことを一緒に考えていきたい。市に愛着と誇りを持って、大きく成長してほしい」と話しました。

市に多額の寄附

おめでとうございます 善行表彰

市の災害対策事業の推進のために、多額の金員を寄附された鮮（せん）コーポレーション株式会社（庄原市）が、廿日市市表彰条例に基づき善行表彰を受けられました。（８月22日付）

代表取締役である西田昌史（にしだまさし）さんは、「市民の安心・安全のため、災害復旧や、災害防止全般の推進に役立てて欲しい」と話してくれました。



寄附していただいた金員は、災害に強いまちづくりに役立てていきます。

水難救助で消防長表彰

米倉さん夫婦が 梅原沖で４人を救助

８月24日、梅原沖へ流され、溺れていた小中学生４人を救助したとして、米倉直希（よねくらなおき）さん、侑子（ゆうこ）さん（宮園）が消防長表彰を受けられました。

８月15日13時20分頃、梅原一丁目の海岸で海水浴をしていた小中学生４人が沖に流されました。そこを水上バイクで通りかかった米倉さん夫婦が発見。家族と協力して、無事４人を岸に運び、救助しました。

お二人は、「一歩間違えれば大変なことになっていました。全員無事に助けられてよかったです」と話してくれました。

永年にわたり市政に貢献

おめでとうございます 功労表彰

市の公平委員会の委員として16年、そのうち委員長を１年務められ、永年にわたり市に貢献された功績により、山本名嘉子（やまもとなかこ）さん（上平良）が、廿日市市表彰条例に基づき、功労表彰を受けられました。（８月20日付）

山本さんは、「情報公開などの課題もありながら、大きな問題もなく任期を終えることができたのは、皆さんの支えがあったからです」と話してくれました。

公平委員会は、職員の勤務条件に関する措置の要求や、職員に対する不利益処分を審査し、必要な措置を講ずる行政委員会です。

BOAT RACE 宮島 10月 宮島競艇施行組合 ☎(56)1122
S M T W T F S
1 2 3 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13
14 15 16 17 18 19 20
21 22 23 24 25 26 27
28 29 30 31
：レース開催日
○：場外発売

お知らせ

第３回市民向け環境講座

テーマ わたしたちの暮らしとごみ
～ごみの量と種類、風呂敷の活用など～
とき 10月19日(金)13時30分～15時30分
ところ 市役所７階会議室
対象 市内に在住、在勤で15歳以上の人（申込不要）
募集人員 20人程度
※エコな暮らしに興味のある人は、ぜひ参加してください
問合せ 地域環境創造室 環境推進係☎㉚9147

講座・催し

宮島お砂焼まつり

宮島お砂焼まつり実行委員会
☎(55)3111

「ちょっと気軽に日本の秋のおもてなし」をテーマとした「宮島口発」のおまつりです。
とき 10月21日(日)10時30分～16時
ところ JR宮島口駅から桟橋までの宮島口商店街一帯
内容 ◇陶器市◇宮浜温泉美人の湯巡りチケット販売◇お茶席◇大野瀬戸のグルメ市◇お菓子の広場◇日赤看護大学のソーラン◇大野東小学校児童による踊りなど
※公共交通機関を利用してください

秋の極楽寺大茶盛り

はつかいち観光協会
☎㉛5656

極楽寺名物の大きな茶碗具を使ったお茶会を開催します。
※雨天決行です。
とき 10月27日(土)13時～（13時現地本道前集合　阿弥陀堂拝見と住職のお話）
ところ 上不見山（じょうふけんざん） 極楽寺 客殿
対象 中学生以上
定員 20人（直接行く人、バス「席数11」で行く人も含めて）
※定員になり次第締め切り
参加費 無料　広電廿日市市役所前から無料送迎バス有り（12時10分発）
受付 10月5日(金)9時30分～
申込方法 はつかいち観光協会まで電話で

木工工作コンクール作品展示会

商工労政課　商工労政係
☎㉚9140

木工工作コンクールの作品展示を行います。
コンクールの金賞作品は第37回「全国児童・生徒木工工作コンクール」にノミネートします。
●**前期**（全作品）
とき 10月6日(土)～10月18日(木)
ところ 木材利用センター
●**後期**（入賞作品のみ）
とき 10月22日(月)～10月26日(金)（最終日は15時まで）
ところ 市役所1階市民ロビー

小学生駅伝大会

佐伯総合スポーツ公園
☎(72)1601

とき 11月25日(日)小雨決行
ところ 佐伯総合スポーツ公園
参加資格 小学3年生以上の男女。1チーム6人（うち1人は補員）
※タイムトライアル参加資格はランナー以外の男女
部門 ▼市内　男子・女子の部▼市外　男子・女子の部▼タイムトライアル
区間 男女共5区間（5.67km）▼タイムトライアル　1.1km
参加料 ▼1チーム1,000円▼タイムトライアル　1人200円
申込方法 指定の申込用紙で、直接または郵送で。申込用紙はホームページからもダウンロード可
申込先 〒738-0222 廿日市市津田545番地 佐伯総合スポーツ公園
申込締切 11月8日(木)必着

秋の鷹ノ巣山トレッキング

佐伯総合スポーツ公園
☎(72)1601 FAX(72)1603

平成8年に開催された「第51回広島国体山岳競技会の会場」となったコースです。頂上でお弁当を食べましょう。
とき 10月20日(土)10時集合
ところ 佐伯総合スポーツ公園陸上競技場
参加費 1人500円（保険代込み）
定員 25人
申込方法 指定の申込用紙で、直接またはファクスで

無料調停相談会

広島民事調停協会
☎082（228）0421

民事調停委員、家事調停委員が無料で相談に応じます。
とき 10月12日(金)
ところ アクアホール　広島バスセンター8階
相談内容 交通事故、消費者金融、不動産賃料など民事上の各種トラブルに関する調停手続き、相続・離婚など家庭内の問題に関する調停相談など
※予約不要

市民センターまつり

市民センターまつりは、日ごろの生涯学習の成果を広く市民に紹介し、また地域文化の発展と生涯学習への参加、住民の学習意欲の向上と交流を図る場とした地域のまつりです。
今年も、自主活動グループやコミュニティ活動を推進する皆さんが、地域の特色を生かして、力を合わせて取り組んでいます。ステージ発表や展示、各種バザーや体験学習コーナーなど盛りだくさんです。まつりの主役は地域の皆さんです。あなたも参加してみませんか。
日程（下半期実施）は次のとおりです。

市民センター名	月	日	曜日	実施時間（予定）
宮島市民センター ☎(44)2005	10	6	土	10：00～16：00
		7	日	10：00～16：00
		27	土	宮島芸能祭 18：30～20：30（宮島幼稚園）
中央市民センター ☎⑳1266	10	20	土	10：00～17：00
		21	日	10：00～15：00
阿品市民センター ☎㊱3630	10	20	土	10：00～15：00
宮園市民センター ☎㊴1699	10	20	土	10：00～15：30
		21	日	9：00～15：00
佐方市民センター ☎㉜5049	10	27	土	10：00～15：00
		28	日	10：00～15：00
串戸市民センター ☎㉜2096	10	27	土	10：00～16：00
		28	日	9：00～15：00
四季が丘市民センター ☎㊳3365	10	13	土	13：00～20：30（前夜祭）
		14	日	10：00～15：00
原市民センター ☎㊴0227	10	28	日	8：45～14：30（原小学校）
宮内市民センター ☎㊴6011	11	11	日	9：00～15：30
地御前市民センター ☎㊱2360	11	10	土	9：00～15：00
		11	日	9：00～15：00
阿品台市民センター ☎㊴4338	11	17	土	10：00～15：00
		18	日	10：00～15：00
大野西市民センター ☎(55)2017	11	24	土	9：30～16：00
		25	日	10：00～15：00
浅原市民センター ☎(72)0001	2	16	土	9：00～21：30
		17	日	9：00～15：00
友和市民センター ☎(74)0001	3	2	土	10：00～16：00
		3	日	10：00～16：00

キノコの観察会

とき 10月14日(日)10時～12時
ところ おおの自然観察の森
予約不要　小雨決行
講師 キノコアドバイザー　井本敏和さん
キノコは一年中生えています。特に、6月と10月は多く見られます。「キノコ」の世界に触れ、毒キノコなどを学習し、自然の営みを肌で感じてみませんか。
問合せ おおの自然観察の森 ☎(55)3000

お知らせ

子どもと本の講座

はつかいち市民図書館
☎⑳0333

おはなし会における絵本の選書やプログラムの立て方などを、実践を交えて勉強する講座です。
とき 11月2日(金)、9日(金)、16日(金)（毎回10時～12時）
ところ 市役所会議室
対象 廿日市市内の図書館や公民館、学校などでのおはなし会の経験が5年未満の人。
※全日程に参加できる人を優先
定員 16人（抽選）
講師 安田女子大学非常勤講師　小林いづみさん
申込方法 往復ハガキに、①郵便番号、②住所、③名前、④電話番号、⑤経験年数、⑥主な活動場所（所属グループ名など）を記入し、次へ
〒738-0023
廿日市市下平良一丁目11番1号
はつかいち市民図書館
申込締切 10月13日(土)必着

外国人のための一日相談会

協働推進課　国際交流・多文化共生担当☎㉚0201
廿日市市国際交流協会事務局
☎⑳0116

(財)ひろしま国際センターの相談員と通訳者による地域での一日相談会を開催します。
在留資格や社会保険について、在留資格相談員・社会保険労務相談員・中国語通訳者・タガログ語通訳者が対応します。
とき 10月14日(日)13時～15時
ところ 市民活動センター
対象 外国籍の人
※地域に住む外国人の交流会を11時から合わせて開催します

廿日市市消防団廿日市分団実戦応急操法大会

廿日市消防署　消防課
☎㉚9234

消防団員が迅速確実な消防技術を発表し、士気高揚と消防活動能力の向上を目的とする競技大会を次のとおり開催します。参観は自由です。多数の来場をお待ちしています。
とき 10月21日(日)9時～12時（小雨決行）
※予備日10月28日(日)
ところ 廿日市市浄化センター用地（串戸一丁目20番1号）

一般情報

公式フェイスブック始めました

広報統計課　広報統計係
☎㉚9121

10月1日(月)から市の公式フェイスブックの試験運用を開始し、はつかいちの魅力やお役立ち情報をどんどん発信していきます。
また、宮島の観光情報の発信に特化したページも同時に運用を開始します。

フェイスブック名	広島県廿日市市	宮島観光情報
管理・運用	広報統計課・観光課	観光課
問い合わせ先	広報統計課広報統計係 ☎㉚9121 ※観光情報は、観光課観光振興係☎㉚9141	観光課観光振興係 ☎㉚9141

※情報の発信がメインですので、原則として市からの返信はしませんが、アカウント（書き込みなどの権利）を持っている人は「いいね！」「コメント」「シェア」をよろしくお願いします
※アカウントを持っていない人でもご覧になれますので、「フェイスブック　広島県廿日市市」「フェイスブック　宮島観光情報」で検索してみてください

はつかいちの介護の日

高齢介護課　高齢介護係
☎㉚9155

11月11日(日)は「介護の日」です。日ごろから介護に関心を持ち、介護について考えるきっかけとして、市では、「介護の日」に合わせた啓発事業を実施します。
とき 10月20日(土)10時～16時
ところ フジグランナタリー1階モール特設会場
内容 介護相談・福祉用具展示・介護食試食・介護事業所パンフレット配布など

野焼きは禁止されています

環境政策課　廃棄物対策係
☎㉚9133

屋外でごみなどを燃やす行為は禁止されています。
一部農業や祭事など限定的に認められている場合もありますが、煙や悪臭、灰などにより周囲の人に迷惑をかけないように努めてください。
野焼きを見かけたら、市役所または、最寄りの支所に連絡してください。

障害者虐待防止法が施行されます

障害福祉課　自立支援係
☎㉚9128 FAX㉛1999

10月1日(月)から障害者虐待防止法が施行されます。
この法律により、家庭や障がい者福祉施設、事業所、職場などで虐待を発見した人の市への通報が義務づけられました。
障がいのある人に対する暴力、嫌がらせなどの虐待を防止することは、障がい者の自立と社会参加にとって重要です。
障がい者虐待の防止、早期発見のため、障がい者虐待の相談、通報、問い合わせは、障害福祉課へ連絡してください。

赤い羽根共同募金

社会福祉協議会☎⑳0294

10月1日(月)から12月31日(月)まで、「赤い羽根共同募金運動」が全国一斉に繰り広げられます。
市内各地で寄せられた募金は、それぞれの地域に助成金として還元され、わたしたちのまちの高齢者、障がい児(者)、児童・青少年、ボランティア活動推進事業など、地域福祉の推進に幅広く活用されます。
皆さんのご協力をお願いします。

図書館

10月のおはなし会

	ところ	とき	対象
小さい子のためのおはなし会	はつかいち市民図書館	5日(金)・19日(金) 11：00～	乳幼児
	大野図書館	13日(土) 14：00～	
おはなし会	はつかいち市民図書館	13日(土)、27日(土) 11：00～	幼児・小学校低学年
	大野図書館	13日(土)、27日(土) 14：00～	
	さいき図書館	13日(土) 10：30～	
ストーリーテリング	はつかいち市民図書館	今月はありません	乳幼児～大人

はつかいち市民図書館 ☎⑳0333
開館時間 月～金曜日 9時～19時　土・日・祝・休日 10時～18時
10月の休館日 25日(木)

大野図書館☎(54)1120　**さいき図書館**☎(72)1011
開館時間 10時～18時
10月の休館日 1日(月)、9日(火)、15日(月)、22日(月)、25日(木)、29日(月)

休日・夜間急患診療

●廿日市市休日・夜間急患診療所
新宮一丁目13番１号（あいプラザに併設）
☎⑳1011・FAX⑳1614（診療時間内のみ）
診療科　内科（15歳以上の人のみ）
診療時間　日曜日、祝・休日／９時～22時
月～土曜日／19時～22時
※電話による問い合わせは、21時45分まで
※支払う医療費には、時間外加算または休日加算が含まれます
＜診療所の利用についてお願い＞
○休日・夜間急患診療所は救急患者のための診療所です。急患でない場合は、できるだけ通常の診療時間内にかかりつけ医で受診してください。
○受診の際は、健康保険の被保険者証を持参してください。

●広島市立舟入病院
広島市中区舟入幸町14番11号　☎082（232）6195
診療科・診療時間
内　科　月～金曜日／17時30分～20時
小児科　毎日実施／24時間
耳鼻咽喉科　土曜日のみ／19時～22時30分

●広島市立広島市民病院
広島市中区基町７番33号　☎082（221）2291
診療科　内科など（歯科・歯科口腔外科を除く）
診療時間　毎日実施／24時間

●広島口腔保健センター
広島市中区富士見町11番９号　☎082（241）4861
診療科　歯科
診療時間　日曜日、祝・休日／９時～15時

救急案内

●廿日市市消防本部　☎㉜8111（休日に診療している病院の問い合わせに応じます）

●県医療情報（救急医療Net HIROSHIMA）ホームページ
アドレス　http://www.qq.pref.hiroshima.jp/

●救急医療案内サービス（ダイヤルインフォメーション）
☎(0120)169901（通話料無料）
受付時間　毎日／24時間

●救急ファクシミリ119番　FAX119

●小児救急医療相談電話
＃8000（携帯電話またはNTTのプッシュ回線から利用できます）または☎082(505)１３９９（いざきゅうきゅう）
相談受付時間　毎日／19時～翌８時
相談対応者　小児科勤務の経験がある看護師（小児科医師が支援）

10月の休日診療（在宅当番医）

診療時間９時～18時

7日㈰	アイビー眼科（宮内）	☎㊲3030
	ひらた耳鼻咽喉科・アレルギー科（天神）	☎㉞3828
8日㈷	廿日市野村病院（内科）（宮内佐原田）	☎㊳2111
	河村小児科（上平良）	☎㊲4153
14日㈰	たかの耳鼻咽喉科医院（阿品三丁目）	☎㊱1133
	ふじかわ心療内科クリニック（下平良一丁目）	☎㉞0035
21日㈰	田口脳外科クリニック（阿品三丁目）	☎㉚7788
	みたに泌尿器科クリニック（下平良一丁目）	☎㉛5000
28日㈰	かわぐちこどもクリニック（下更地）	☎㊿2882
	松田整形外科（串戸二丁目）	☎㉞1800

相談あれこれ

※㋮は事前に予約が必要です。㊫は電話による相談も可能です
※佐伯・吉和・大野・宮島地域で実施される相談の「相談会場」、「問合せ・予約先」は茶色で記しています

相談	開催日	開催時間	相談会場	問合せ・予約先
市民相談㊫ 市政に関する要望や生活上の困りごとなど	月・火・金曜日（祝・休日を除く）	９時30分～14時30分（受付は14時まで）	市役所２階市民相談室	広報統計課広報統計係 ☎㉚9121
行政相談 国や特殊法人に関する意見・要望など	10月17日㈬	13時～16時（受付は15時30分まで）	大野支所32会議室	大野支所地域づくり推進課☎㉚2005
	10月25日㈫		市役所４階402会議室	広報統計課広報統計係☎㉚9121
無料法律相談㋮ 弁護士による相談	10月10日㈬・16日㈫ 24日㈬	13時～16時	市役所４階402会議室	広報統計課広報統計係 ☎㉚9121、☎⑳0001（内線1492） 受付開始：10月１日㈪８時30分から電話受付 ※１人30分
無料登記相談 土地家屋調査士による相談	10月18日㈭	13時～16時	市役所４階402会議室	広報統計課広報統計係☎㉚9121
消費生活相談㊫ 消費生活上のトラブルに関する相談（多重債務・悪質商法ほか）	月～金曜日（祝・休日を除く）	９時～12時、13時～16時	消費生活相談室（市役所６階商工労政課内）	廿日市市消費生活センター ☎㉛1841・FAX㉛0999
就業支援相談㋮ キャリア・コンサルティング、職業適性診断、職業訓練相談など	第２・第４水曜日（祝・休日を除く）	12時30分～16時30分	市役所２階市民相談室	商工労政課商工労政係☎㉚9140 相談時間：12時30分～13時30分、14時～15時、15時30分～16時30分
家庭児童相談㊫ 要保護児童・虐待など	月～金曜日（祝・休日を除く）	８時30分～17時15分	市役所１階児童課	児童課児童家庭係☎㉚9153 児童相談所全国共通ダイヤル☎0570(064)000
子育てに関する相談㊫	月～金曜日（祝・休日を除く）	８時30分～17時15分	廿日市子育て支援センター（あいプラザ内）	廿日市子育て支援センター ☎⑳1612・FAX⑳1613
	土・日曜日、祝・休日	10時～12時、13時～17時		
	月～金曜日（祝・休日を除く）	９時～15時	大野子育て支援センター（深江保育園内）	大野子育て支援センター ☎FAX㊺0356
電話育児相談㊫ 市内各保育園で実施しています	水・木曜日（祝・休日を除く）10時～15時			

保育園名	電話番号	ファクス番号	保育園名	電話番号	ファクス番号	保育園名	電話番号	ファクス番号
佐方	㉜0858	㉜5603	廿日市	㉛0112	㉛1638	平良	㉛1165	㉜7521
原	㊳6135	㊳1616	宮内	㊴0671	㊴1636	宮園	㊳6126	㊳3205
串戸	㉜0970	㉜5706	地御前	㊱0273	㊱3262	阿品台東	㊴0618	㊴6111
阿品台西	㊴0351	㊴4031	友和	㉞0834	㉞0672	津田	㉗0952	㉗0939
浅原	㉗0205	㉗0086	吉和	㉗2470	㉗2460	深江	㊺0328	㊺0356
池田	㊺2026	㊺2018	いもせ	㊺2051	㊺2009	梅原	㊹1559	㊹1558
丸石	㊺2073	㊺2010	鳴川	0827㊼5571	0827㊼5898			

相談	開催日	開催時間	相談会場	問合せ・予約先
心配ごと相談㊫ 日常生活上のなやみごとや対人関係のもつれ、困りごとなどの相談	火・金曜日（祝・休日を除く）	13時～16時	あいプラザ	廿日市市社会福祉協議会廿日市事務局（あいプラザ内）☎⑳0783・FAX⑳1616
	水曜日（祝・休日を除く）	13時～16時	佐伯社会福祉センター	同佐伯事務所（佐伯社会福祉センター内） ☎㉗0868・FAX㉗1005
	10月10日㈬・17日㈬・31日㈬	13時～16時	吉和福祉センター（すこやかプラザ）	同吉和事務所（吉和福祉センター内） ☎㉗2883・FAX㉗2514
	木曜日（祝・休日を除く）	13時～16時	大野福祉保健センター	同大野事務所（大野福祉保健センター内） ☎㊺3294・FAX㊺3275
	10月１日㈪・15日㈪	13時～16時	宮島福祉センター	同宮島事務所（宮島福祉センター内） ☎㊹2785・FAX㊹2661
認知症介護相談㋮	10月９日㈫	13時～15時	あいプラザ	※㋮は、10月１日㈪８時30分から前の週の金曜日まで、廿日市事務局で受け付けます
認知症介護相談㊫	10月23日㈫	13時～16時	大野福祉保健センター	
成年後見相談㋮	10月18日㈭	13時～16時	あいプラザ	
ボランティア相談・福祉総合相談㊫	月～金曜日（祝・休日を除く）	９時～17時	廿日市市社会福祉協議会各事務所	
障がいに関する総合相談㊫	月～金曜日（祝・休日を除く）	９時～17時	障がい福祉相談センター（あいプラザ内）	障がい福祉相談センター「きらりあ」 ☎⑳0224・FAX⑳0225
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による専門相談㋮	10月18日㈭	14時～16時	あいプラザ１階相談室	障害福祉課 障害福祉係☎㉚9152 相談時間：１人30分程度
教育相談㊫	月～金曜日（祝・休日を除く）	９時30分～16時30分	廿日市市こども相談室☎㉜8061	
こどもいじめ110番㊫	月～金曜日（祝・休日を除く）	９時30分～16時30分	☎(0120)080110（通話料無料）	
高齢者の総合相談㊫	月～金曜日（祝・休日を除く）　８時30分～17時			

地域包括支援センター	電話番号	ファクス番号	地域包括支援センター相談業務、実態把握業務委託法人	電話番号
地域包括支援センターはつかいち	㉚9158	㉛1999	佐伯さつき会よしわせせらぎ園	㉗2377
地域包括支援センターさいき	㉗2828	㉗0415		
地域包括支援センターおおの	㊿0251	㊺1307	いもせ聚楽会宮島ふれあい	㊹0250

宮島街道　ふれあいコンサート

入場無料

10月18日㈭　さくらぴあ小ホール
18時30分開演
出演　坪北紗綾香、ふちだ楽器店の皆さん、正光技建「正光女子」、鼓遊会

和風フュージョンバンド
安芸楽団

チケット発売中

10月19日㈮　さくらぴあ小ホール
18時30分開演
全席自由　前売1,000円　当日　1,200円

高嶋ちさ子 12人のヴァイオリニスト

～女神たちの響宴～　チケット発売中

10月19日㈮　さくらぴあ大ホール
19時開演　全席指定　4,500円
クラシックをより身近に。観ても聴いても、美しく楽しいヴァイオリン・アンサンブル。

音楽の絵本

～親子のためのクラシックコンサート～　チケット発売中

10月20日㈯　さくらぴあ大ホール
13時30分開演　全席指定　1,800円
０歳から入場可能。３歳以上有料

平家を愛して

チケット発売中
～平清盛公への鎮魂の物語～

10月20日㈯　さくらぴあ小ホール
18時開演　全席自由　1,000円
出演　荒尾努（平家琵琶）、浜村敏彦（笛奏者）、宮島太鼓の皆さん、夢俥髷一代　大橋実（友情出演）

新人コンクール入賞者コンサート

チケット発売中

10月21日㈰　さくらぴあ小ホール
14時開演　全席自由　1,000円
出演　小松加奈（オーボエ）、宮入響子（ピアノ）、吉田早希（声楽）

1　10月14日㈰ Tony Suggs & The Bay-See Boyz
2　10月19日㈮ 高嶋ちさ子
3　10月20日㈯ 音楽の絵本

4～6　10月21日㈰ 新人コンクール入賞者コンサート

4　小松加奈
5　宮入響子
6　吉田早希

はつかいち音楽祭オープニングライブ
まなみのりさinはつかいち

チケット発売中

10月13日㈯　さくらぴあ小ホール
18時30分開演　全席指定　1,000円
メジャーデビューを果たした広島のご当地アイドル

TSUKEMEN（ツケメン） LIVE 2012 EL DORADO

チケット発売中

10月13日㈯　さくらぴあ大ホール
15時開演　全席指定　3,800円

ＦＭはつかいちpresents
ドリームコンサートはつかいちっく♪

入場無料

10月14日㈰　さくらぴあ小ホール
13時開演
ＦＭはつかいちパーソナリティとして活躍中のアーティストが音楽で盛り上げます。

Tony Suggs & The Bay-See Boyz Japan Tour

チケット発売中

10月14日㈰　さくらぴあ大ホール
16時30分開演　全席指定一般4,500円
高校生以下2,000円

ふれあいコンサート
たいこ食堂の「おいしい秋見つけた!」

入場無料

10月16日㈫　さくらぴあ小ホール
18時30分開演
出演　たいこ食堂（出口智子、木田景子）

ふれあいコンサート
竹内志乃の音楽で綴る 絵画のピアノコンサート

入場無料

10月17日㈬　さくらぴあ小ホール
18時30分開演

編集後記

今月の特集は神楽。遠い昔から大切に伝えられてきた神楽を次代に引き継ごうとしている姿を紹介しました。

煌びやかな舞台の裏では、どの団も後継者不足に頭を悩ませています。しかし、「意地」と、「誇り」と、「ど根性」で、その問題に真っ向から立ち向かう団員の姿は、光り輝いていました。

神楽の演目（能舞）は、そのほとんどが正義の味方が悪者を倒すという勧善懲悪のストーリーです。しかし、仇打ちや色恋話、我が子を思う母の情など、人の心を打つ物語も数多くあります。神楽は、そのストーリーに人生の縮図が写されているとも言われ、そこが魅力の一つでもあります。

「一人では、神楽を舞うことはできません。舞方、楽、裏方、そして何より、見てくれる人がいてこその神楽です」。団員の一人がそう言われました。お互いを信頼して舞う姿。そして地域とともに、泣き、笑い、共に歩んでいる神楽。それが、永い歴史の中で、多くの人を魅了し続けてきた理由だと思います。

さて、これからは神楽のシーズン。まつりやイベントなどで目にする機会も多いですね。「まだ見たことがない」という人は、ぜひ足を運んでほしいと思います。

川辺

広報はつかいち　発行　廿日市市　〒738-8501　広島県廿日市市下平良一丁目11番１号　☎0829⑳0001㈹・FAX0829㉜1059
編集　分権政策部　広報統計課　広報統計係
ホームページアドレス　http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/

●市政ラジオ放送　ＦＭはつかいち　76.1ＭＨz
月～金曜日　8：40～8：55　13：10～13：25　17：10～17：25　土曜日　9：10～9：25

◆人口と世帯数　９月１日現在　（　）は前月比
人口：117,899人（－52人）　男性：56,617人（－30人）　女性：61,282人（－22人）　世帯数：49,092世帯（－20世帯）

この広報紙は環境に優しい古紙を利用した再生紙と、大豆油インクを使用しています。